



社会科からのアプローチ

國學院大學人間開発学部教授
安野 功

1 社会科における言語活動の役割

社会科は、社会生活、すなわち「社会との関わりの中で営まれる人々の生活」を学ぶ教科である。社会は、人間相互の関わり、人間を取り巻くさまざまな環境との関わりを通して、人間がつくりあげたものである。そうした社会との関わりの中で営まれる人々の生活が、どのような意味をもっているのか。——それを解き明かしていくのが社会科の学習である。

この学習においては、言葉及びそれを用いた学習活動、例えば、見学メモを書く（記述）、そのメモに自分の意見を書き加える（解釈・意味づけ）、対話や話し合いを通して互いの考え（意味づけ・解釈）を伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させるなどの言語活動が必要不可欠である。それはなぜか。社会科の学習においては、言葉及びそれを用いた学習活動が、次の三つの役割を果たしているからである。

①社会に生きる人々の行為や相互の関わり

2 社会科における言語活動のポイント

社会科の授業は、見学メモ、対話、話し合いなど、さまざまな言語活動を組み合わせて展開されている。その中でも、小学校社会科で特に大切にしたい活動が次の二つである。

■体験を言語化する活動

見学や調査など、社会にあるものや社会

の様子、出来事などを、事実として捉える（記述する）際のツール・有効な手段として

②事実として捉えた人々の行為や相互の関わりの様子、出来事などの社会的な意味を考え、それを明らかにしていく思考活動（意味づける・解釈する・吟味する）を促進するツール・有効な手段として

③他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び（みんなで学び合う）を支えるツール・有効な手段として

3

3 国語科との関連を図るために

ポイントは三つある。一つは、「話型」「つながり言葉」「問い・考えと根拠・結論の文脈」など、国語科で学んだ言語操作のしかたを活用し、子どもが各自の考えを組み立てる学習活動を工夫すること。

二つは、国語科で学んだ言語による意見交流のしかたを活用し、それぞれの考えを大切にしながらも、みんなの考えはどうかを吟味・検討し合い、社会的な見方や考え方の成長を図ること。

いま一つは、社会科での言語活動を豊かに展開し、言語力を養うことである。

▼写真1：写真上部をよく見ると、トラックが屋根の上に乗っているように見える。



▲写真2：真ん中に走る道路がいちばん高く、手前に広がる運動場は、奥の川の水面よりも低いところにあるように見える。



▲写真3：家（水屋）が高い石垣の上に建っているのは、水害に備えるためである。

という二つの解釈が生まれてくる。この解釈のズレが、「家が普通の高さで道路が高いのか、それとも家が低いのか」という疑問を誘発する。

その疑問を解き明かすため、写真2を提示する。そして、「道路（堤防）、水面、建物の建つ土地の高さを見比べてノートに図で書き表す」という言語活動を通して、低地の土地の様子を捉えていく。

さらには、「一なのはーのため」という話型とともに写真3を提示し、川に囲まれ、水とともに生きる低地の暮らしに目を向けていくのである。

やすの いさお
安野 功

埼玉県生まれ。埼玉県内の公立小学校教諭、指導主事、文部科学省初等中等教育局教科調査官を経て、現職。著書に、『小学校社会 板書で見る全単元・全時間のすべて』（東洋館出版）、『安野功の授業実践ナビ 社会』（文溪堂）、『ことばの力が育つ対話型学級経営』（日本標準）など。小学校学習指導要領解説社会編の編集にあたる。

